

# 大島久見 年譜

能楽シテ方喜多流職分

国総合指定重要無形文化財

日本能楽会理事(平成7～14年度)

大正 4	1915	1月23日、大島寿太郎の三男として福山に生まれる。
大正 7	1918	仕舞「猩々」で初舞台。
昭和 7	1932	旧制誠之館中学校を卒業。 喜多流宗家の元へ内弟子入門。十四世喜多六平太師(人間国宝)に師事。
昭和13	1938	呉市の荒川知子と結婚。東京に居を構え分家する。
昭和20	1945	9月、東京から郷里福山に帰り、焼土化した福山に文化の灯を燈すことを決意する。(父寿太郎の建てた舞台は空襲で焼失)
昭和22	1947	喜多宗家三代(14世、15世、16世)を福山に招聘し、大島家追善能を大島舞台にて開催。 その後毎年のように東京より宗家を招聘して能会を開催する。(「定例能 200 回の記録」を参照)
昭和27	1952	「道成寺」を被演。
昭和29	1954	長兄 厚民の長男 政允を跡取りと決め、広島宇品より福山に引き取る。 「望月」を被演。
昭和33	1958	年4回の「能楽教室」(現在の定例鑑賞能)を立ち上げる。 他に先駆け、解説付きでの演能を開始し、能楽普及に努める。 年4回の他に、約2年に1回別会を催す。主演者に後藤得三、喜多実、喜多長世、喜多節世、栗谷新太郎、栗谷菊生、友枝喜久夫、和島富太郎の諸氏を招く。
昭和 42	1967	国の重要無形文化財の総合指定を受ける。
昭和46	1971	福山市光南町に本格的な能楽堂(約380席)を建設。能楽堂竣工記念能を催す。 その後この舞台を拠点に、数多くの大曲を被く。 政允、長田驍、金子匡一等の後進の指導にも力を注ぐ。
昭和48	1973	政允、泰子の婚姻と共に養子縁組をする。
昭和49	1974	初めて東京で大島会を催す。
昭和50	1975	喜多流 アメリカ、カナダ、親善能楽団に参加。
昭和51	1976	政允一家、東京より福山へ転居。 毎年のように別会を催しながら、孫を含む後進を育てる。
昭和57	1982	広島文化賞受賞。
昭和61	1986	第1回 福山八幡宮薪能の実行委員として立ち上げに参加。以降毎年恒例となる。
昭和63	1988	16世宗家継承記念能にて「鷲」を被演。(喜多流に於いて宗家外の職分家では初めての上演)
平成 3	1991	喜寿祝賀能で「木賊」を被演。
平成 6	1994	傘寿記念能で最高の秘曲「伯母捨」を被演。
平成 7	1995	第1回 三和の森薪能 以降毎年恒例となる。
平成 9	1997	「西行桜」のシテを勤め、現役最後の区切りとする。(その後は折々の催しで、謡や仕舞を勤める)
平成15	2003	脳出血のため床に伏す。
平成16	2004	2月3日 没(89歳)。
平成26	2016	7月1日 福山市市制 100 周年記念式典で特別栄誉賞を贈られる。
令和 4	2022	8月10日「福山ゆかりの先人」に選定される。